

株式会社 アムテック サステナブル経営支援ローン 評価レポート

評価日: 2026年5月29日

株式会社北洋銀行
北二十四条支店

1. 基本情報

企業名	株式会社アムテック	
代表者名	島田 清光	
所在地	北海道札幌市北区新琴似町 1010-10	
資本金	1,000 万円	
従業員	9 名 (2026 年 5 月現在)	
業種	配管工事業	
事業内容	冷暖房設備工事、給排水設備工事、衛生設備工事、架台製作取付、パイプネジ加工、パイプ溶接加工、ルーズフランジ式フレア管製作・施工	
沿革	2011 年 4 月	島田 清光氏が個人創業し、冷暖房・給排水・衛生設備の配管施工業を開始
	2014 年 4 月	株式会社アムテックを設立し、代表取締役にも島田 清光氏が就任 札幌市北区屯田 9 条 10 丁目 3 番 2-1 号に本社を構える
	2018 年 2 月	札幌市西区平和 3 条 10 丁目 5 番へ本社を移転
	2021 年 4 月	資本金を 1,000 万円に増資
	2021 年 5 月	札幌市北区新琴似町 1010-10 へ本社を移転

2. 経営理念

経営理念

全てのお客様へ誠実なご提案と製品を

当社は、「全てのお客様へ誠実なご提案と製品を」を経営理念に掲げ、その実践のために以下の3つを大切にしている。

■ 職人の「歓喜」を、お客様の「安心」へ

「職人が仲良く楽しく、技術を存分に発揮できる場」を掲げている。ここでの「楽しさ」とは、困難な現場であっても仲間と知恵を絞り、最高の技術でお客様の課題を解決することにある。その達成感と、お客様からの「ありがとう」の言葉こそが、原動力である。

■ 「家族」のような絆で、信頼を築く

共に切磋琢磨する仲間は、互いを支え合う家族のような存在。この大切な家族が前向きに挑戦し続けられるのは、会社を信頼してくださるお客様のおかげに他ならない。その感謝を、一切の妥協を許さない誠実な施工と、嘘のない提案に込める。

■ 継続的な技術の向上

水という生活の根幹を支える責任を胸に、「現状維持は後退」と心得ている。一歩ずつでも確実に成長し、技術を磨き続ける。「アムテックに任せれば大丈夫」という絶対的な信頼を得て、関わるすべての人をハッピーにする。そして地域社会に貢献する企業を目指し、すべての現場で誠実を貫き通す。

■ 配管加工の様子



■ 社屋の写真



出所: ㈱アムテック 提供資料

3. 事業概要

当社は、主に大型施設の配管工事をメインに行っており、配管の製作・取付までを自社で一貫して担う「トータルエンジニアリング」を実施。再開発が加速する札幌・すすきのエリアや大通の大型施設を数多く手がけ、年間で200トンを超える配管を組み上げる施工実績は、業界内でも上位に位置する。

当社の最大の強みは、一級配管技能士を有する多数の専門人材による、「高度な現場対応力」である。施工現場においては、設計図面と現況に乖離が生じる事態も少なくないが、当社は豊富な実務経験に基づき、迅速かつ的確な状況判断を実施。寸法との相違に対しても、すぐに修正対応を行う体制を整えており、この臨機応変な解決能力が、当社の信頼の証となっている。

さらに2024年11月には新社屋を竣工し、同時に道内でも導入例が極めて少ない最新鋭の加工機械を導入。積極的な設備投資を通じて労働環境の整備と顧客への付加価値向上を両立させ、事業の継続性と収益性を高めることで、次世代型配管工事業のモデルケースを構築している。

【主な事業内容】

■冷暖房設備工事

工場、物流倉庫、オフィス、医療施設、教育施設、共同住宅等、あらゆる産業用空調設備の配管工事を実施する。画一的な施工にとどまらず、現場の構造や空調性能を事前に精緻に検証した上で、管材の長さ・形状・材質を最適化する設計能力を有している。

空調配管は、空間環境の維持に直結する設備の中核を担う重要部材である。長年の実績により蓄積された知見と技能を基盤とし、顧客ニーズおよび建物特性に合致した高効率な配管システムを構築。確かな施工品質を通じて、建物の機能性維持と資産価値の向上に寄与する。

■給排水設備工事

産業施設および公共施設を対象とした給排水管工事を主軸とし、技術革新の著しい水回り設備に即応した給排水システムを供給する。

近年主流である節水型機器においては、低流量での搬送能力、防臭・遮音性能、保守省力化など、高度な排水設計能力が不可欠となる。また、意匠性を重視した配管遮蔽構造の増加に伴い、施工には極めて高い精度が要求されるが、当社は経年劣化による漏水リスクを排除する確実な施工品質を有している。

最新の設備トレンドを捉えた技術対応力と、誠実な施工管理体制により、顧客が求める高水準なインフラ環境の実現に寄与する。

■配管の写真



■配管施工の様子



出所：(株)アムテック 提供資料

■衛生設備工事

住宅・業務用を問わず、厨房、浴室、洗面、トイレ等の衛生設備に伴う配管工事を遂行する。空間の規模、想定利用人数、導入機器の特性といった諸条件を精緻に分析し、効率的かつ合理的な配管システムを構築する。

衛生設備は長期使用が前提となるため、不可視部分である配管の経年劣化が看過されやすいという課題がある。これに対し、当社はプロフェッショナルな視点による点検・診断体制を整備。潜在的な不具合を早期に発見し、中長期的な修繕コストの最適化と事故未然防止に向けたソリューションを提示する。

■架台製作・取付

配管およびダクトの支持に不可欠な架台の製作・据付を担う。H形鋼、等辺山形鋼（アングル）、鋼管（丸パイプ）等の各種鋼材を用い、現場の空間制約や支持対象物の荷重、仕様に合致した製品を個別に設計・製造する体制を構築している。

徹底した工程管理により、高品質・短納期・コスト適正化を同時に実現。新規設置のみならず、経年劣化に伴う既存架台の修繕や更新工事にも柔軟に対応し、設備全体の安全性維持と長期稼働を担保する。

4. サステナビリティへの取組み

当社のサステナビリティ経営は、単なる社会貢献ではなく、会社の成長と社会への貢献を両立させるための戦略であり、具体的には、以下の3つの側面(ESG)を同時に達成することを目指している。

(1) 環境面

配管資材価格の高騰は、販管費および一般管理費を直接的に圧迫するリスク要因であり、資材ロス(端材)を極限まで抑制し、資源の有効活用を図ることは、環境負荷の低減と同時に売上原価の改善・営業利益率の向上に直結する。

当社では、昨年導入したカットオフマシンにより端材発生率を最小化。資源ロスを抑制し、資材調達コストの最適化を図っている。また工事の中で発生した端材を「廃棄物」ではなく「循環資産」とし、パイプシェーバーを用いた高精度な管端加工により、端材の100%再利用を目指している。集中加工(プレハブ化)による現場コストの最適化・自社加工場での事前加工を徹底し、施工現場における産業廃棄物排出量を「実質ゼロ」とすることで、廃棄物処理費用を削減し、収益構造の安定化を図っている。

■パイプシェーバーを拡大したもの



■パイプシェーバーの機械



出所:㈱アムテック 提供資料

(2) 社会面

労働力不足が深刻な北海道において、人材の確保・育成は事業継続上の重要な課題である。

当社の代表取締役である島田氏は、「北海道配管事業協同組合青年部」の会長を務める中、配管工事業は他業種に比べ認知度が低く、若年層のなり手が少ない現状を打破するため、業界全体の魅力を伝える様々な活動を主導している。その一環として、道内の中高生を対象とした工場見学やインターンシップを積極的に実施し、仕事の魅力を直接伝えることで若者の興味を喚起し、次世代技術者の確保と確実な技術継承を目指している。また、人材育成に関しては、通常3年程度を要する技術習得を短縮する独自の「早期育成システム」を構築。教育の標準化を進めた結果、新入社員の定着率は98%という極めて高い水準で推移しており、深刻化する労働力不足の中でも、地域インフラを長期にわたり維持・管理できる経営基盤を構築している。

その他にも、小学校への寄付や出前授業、技術フェスティバルの主催に加え、道内での植樹・森林保全活動等にも参加しており、業務だけでなく日々地域社会・住民との信頼関係構築し、企業価値の向上に努めている。

■中・高生向けのインターンシップの様子



■社員交流会の様子



出所:㈱アムテック 提供資料

(3) 経済面

当社は地方における技術情報の格差を解消し、地域インフラを支える責務を果たすべく、環境変化に強い組織づくりを推進している。首都圏等の先進事例を積極的に取り入れ、最新鋭の設備導入を導入することで、道内における優位性の高い施工体制を確立。さらに、島田氏が会長を務める北海道配管工事業協同組合青年部を通じて、最新情報を道内企業へ共有し、業界全体の技術水準の向上を主導している。

また、安全管理面においても、2012年の創業以来、無災害記録を継続しており、定期的な安全講習会の実施により現場の安全性を徹底している。

【作業中の様子】



出所:㈱アムテック 提供資料


5. サステナビリティ目標

当社の更なる企業価値の向上と、持続可能な開発の実現にむけた社会課題を踏まえ、以下のサステナビリティ目標を設定した。この目標は、当社の事業エリアである北海道が持続的に発展し、魅力ある地域を創り上げていくために策定した「北海道総合計画(2024)」などを参照し、設定したものである。目標達成への企業行動を通じて、当社のプレゼンス向上と地域社会が目指す姿の実現に貢献するものであり、目標は有意義である。

(1) 環境面におけるサステナビリティ目標

重要課題	脱炭素社会実現への貢献
目標・KPI	温室効果ガス排出量の可視化を実現する。
関連するSDGs	 

(2) 社会面におけるサステナビリティ目標

重要課題	人的資本経営の推進
目標・KPI	従業員のエンゲージメントの可視化を実施し、継続的に向上させる。
関連するSDGs	

留意事項

本文書は、北洋銀行が借入人に対して実施する「サステナブル経営支援ローン」に際し、借入人の企業経営とサステナビリティ目標に対する北洋銀行の評価を述べたものです。

本文書に記載された情報は、現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況の評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

北洋銀行は当文書のあらゆる使用に起因して発生する全ての直接的、間接的損失や派生的損害については、一切義務または責任を負わないものとします。

本評価書に関する一切の権利は北洋銀行に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用(複製、改変、翻案等を含む)は禁止されています。